

ひろがる！山武の環境にやさしい農業

山武郡は千葉県でも「環境にやさしい農業」の進んでいる地域です。

環境にやさしい農業とは、「土づくりなどを通じて化学肥料や農薬の使用をできる限り少なくした、生産性と環境に配慮した農業」のことです。

「環境にやさしい農業」という考え方は、消費者の安心・安全に対するニーズの高まりや、エコファーマー制度の普及などにより、現在では日本農業の主流を形成しつつあります。

エコファーマーとは、国の法律に基づいて「土づくり」「化学肥料低減」「化学農薬低減」の技術に取り組んでいる農業者のことです。

昨年9月末現在で、千葉県には682名のエコファーマーが県知事の認証を受けております。その約70%にあたる461名は山武地域の農業者で占められています。また、県が認証を進めている「ちばエコ農産物」の認証品目も山武では9品目あり、約150haの田畑で取り組まれています。

山武は農業粗生産額426.1億円(平成14年度)で県下5番目の地域ですが、「環境にやさしい農業」への取り組みでは県をリードする存在となっています。

農産物の生産を食べる人の立場で考える山武地域の農業が、今後一層発展することを期待してやみません。

表1 「ちばエコ農産物」への取り組み状況(申請を承認したものを含む)

| 品目 | 面積(ha) | 市町村 |
|-----------|--------|----------------------------|
| 水稻 | 81.45 | 全域 |
| 秋冬ニンジン | 43.19 | 山武町 芝山町 横芝町 東金市 |
| ハウス半促成トマト | 6.75 | 成東町 松尾町 蓮沼村 大網白里町 |
| ハウス半促成スイカ | 5.95 | 芝山町 |
| トンネルスイカ | 4.15 | 芝山町 |
| 春ニンジン | 3.79 | 山武町 横芝町 松尾町 蓮沼村 |

| | | |
|-----------|------|-----|
| さつまいも(普通) | 2.68 | 山武町 |
| さといも(マルチ) | 1.15 | 芝山町 |
| 日本なし | 0.1 | 東金市 |

表2 都道府県別エコファーマーの認定状況（平成16年9月末現在）

| 地域 | 実数(人) | 割合(%) |
|-----|--------|-------|
| 全国 | 62,866 | 100.0 |
| 関東 | 18,196 | 28.9 |
| 千葉 | 682 | 1.1 |
| 茨城 | 4,130 | 6.6 |
| 栃木 | 4,990 | 7.9 |
| 群馬 | 1,632 | 2.6 |
| 埼玉 | 2,748 | 4.4 |
| 東京 | 82 | 0.1 |
| 神奈川 | 69 | 0.1 |
| 山梨 | 2,141 | 3.4 |
| 長野 | 471 | 0.7 |
| 静岡 | 1,251 | 2.0 |

表3 千葉県内のエコファーマーの認定状況（平成16年9月末現在）

| 地域 | 実数(人) | 割合(%) |
|-----|-------|-------|
| 千葉県 | 682 | 100.0 |
| 山武 | 461 | 67.6 |
| 千葉 | 1 | 0.1 |
| 東葛飾 | 33 | 4.8 |
| 印旛 | 43 | 6.3 |
| 香取 | 55 | 8.1 |
| 海匝 | 89 | 13.0 |
| 長生 | 0 | 0.0 |
| 夷隅 | 0 | 0.0 |
| 安房 | 0 | 0.0 |
| 君津 | 0 | 0.0 |

図 平成16年の急性萎凋症の原因(千葉県内)
協力: 県農業総合研究センター
JA全農ちば

ウリ類の急性萎凋症対策

「萎れないスイカ作り」

16年産のスイカ、かぼちゃ、メロンを襲った萎れ症の原因は、大半がホモブシス根腐病という土壌病害によるものでした。

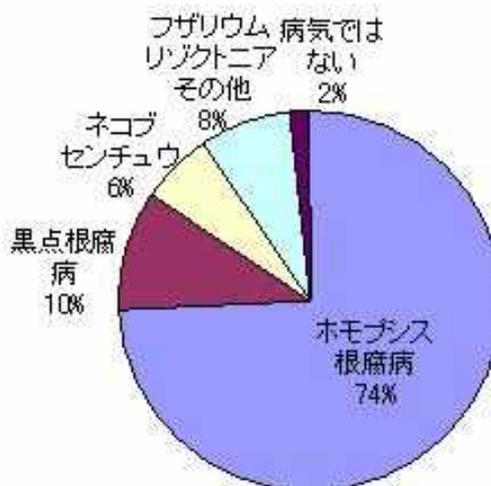
しかし、萎れは気象条件や土壌条件、栽培管理からも大きな影響を受けていると考えられます。例えば老化苗を定植したり、植付ほ場の地温確保が不十分で活着がうまくいかず、萎れを助長したことも十分に考えられます。

活着を良くするポイントは、まず第一に、地温の確保です。

マルチは遅くとも定植の3週間前に張り、最低地温 15～18℃以上を確保してから定植します。最低地温は、温度計を深さ 15cm 以下に差し込み、日の出から3時間後で測ります。

次に定植苗質です。本葉5～6枚時に節間が詰まり、横に本葉が張り出した苗を植えます。芯止まり苗や葉が軟らかく大きく繁茂した苗は除きます。育苗後半でしめつけて根を傷めた苗も避けた方が良いでしょう。

ほ場では、土壌水分の確保にも注意して下さい。土壌水分計などを使いP F値 1.8 くらいで植え付けることをすすめます。



夏秋小菊の管理

トンネル被覆をした露地親株床の管理について

- ・台刈り

1月下旬に地上部を5cmに刈り込みます。

- ・換気

2月になってトンネル内が25℃以上になったら、日中は1列2～3ヶ所換気します。

- ・薬剤散布

1月下旬の台刈時とさし穂を取り始める前に、Mダイファー、アドマイヤーフロアブルなどの殺虫殺菌剤やダニ剤で防除します（30℃以下で実施）。

- ・さし穂

3～4cmの長さになったら、手でぽきっと折り、下葉を2枚程度落とし、肥料分のない床土を敷いた育苗箱に3cm間隔でさします。

- ・育苗管理

たっぷりかん水後、新しいポリ(厚さ0.02mm)でべたがけし、ダイオネットなどでトンネル遮光します。

発根を促すためにはハウス内におくのがよいでしょう。

発根を確認したら、再び水をたっぷりかけます。

その後、芯葉が動いてきたらポリを完全に外して苗を慣らしませす。

定植までには、14日～30日かかります。

- ・定植

8月出荷は、4月に入って遅霜の心配がなくなったら、5月上旬までをめどに定植します。

技術情報・水稻

適切な温度管理で防ぐ

水稻苗の細菌性病害

近年、水稻苗の細菌性病害による被害が多くなっています。

細菌性病害には、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、褐条病の3種類があります。

いずれも、浸種処理中などに保菌籾から感染が広がるため、一端発病すると有効な薬剤が無いこともあって、被害は大きくなります。

発生原因は、

1. 細菌性病害に有効な種子消毒剤を使っていない場合
2. 温度管理が高温すぎた場合
3. 床土の湿りすぎ

がほとんどです。

種子消毒

必ず、スターナ剤の入った種子消毒剤を使いましょう。

温度管理

育苗期間を通して、高めの温度条件で増殖、感染、発病しやすくなります。

温度管理を適切にするためには、棒温度計で正しく測定することが大切です。

播種から緑化期にかけては、床土の種籾の位置で温度を測ります。

シリーズ・伸びる直売所をめざして

最終回

～女性の感性で直売所をレベルアップ～

活気ある直売所では、女性のもつ視点・アイデア・技術が活かされています。

1. 勉強熱心になろう

お客さんを飽きさせないよう定期的に「新しい野菜」について講習会や研修会で勉強しましょう。

栽培したものは、家族で食べて感想や意見を聞いてみてはどうでしょう。そうすることでお客さんに食べ方を提案できます。

2. 暮らしの技術を活かそう

旬の野菜でつくった漬け物や、彼岸や節句など季節感を先取りした品物を並べてみませんか。

おいしくて健康に良いもの、暮らしを楽しむ技術を活かしたアイデアは支持されます。

3. お客さんと会話しよう

お客さんと直接会話をして、「今、何が売れるのか」などセンスを磨くことも大切です。

会話の中で思わぬ新商品開発のアイデアを得ることがあります。

4. 自分の名前で売ろう

野菜や加工品に女性の名前が入っていると、消費者の安心感が得られるようです。

農家のお母さんが作っているなら「安心」というイメージも直売所の強みです。

生活経験豊かな農家の女性たちは、安心を売る直売所の看板です。

女性達の積極的な参画が、直売所の今後の発展の大きな鍵となります。

みどりかわよしこ
シリーズ・^{いま}現在を輝く 成東町・緑川芳子さん
自分らしさを活かして・・・

今回は、成東町で苺づくりをしている緑川芳子さんを紹介します。

芳子さんは、夫と2人で観光苺園を経営しています。

これまで栽培や販売の悩みは2人で解決してきました。そのため責任を持って仕事ができるよう作業分担しています。芳子さんは育苗担当として、研修会で得た新しい技術を積極的に取り入れ、我が家にあった方法を工夫しています。

「まずはやってみて、結果を見る。うまくいかない時は工夫して自分のものにしてきました」と芳子さん。だから、「失敗は大好き」と前向きな様子が伝わってきます。

販売面での工夫について尋ねると「第一にお客さんの立場でものを考えるようにしています」とのことでした。

「書くことが好き」という芳子さんは、お客さん一人一人へお礼の気持ちをメッセージにして伝えているそうです。

一年かけての苺づくりの細かい作業の合間をぬって、花づくりが芳子さんの気分転換になっています。少しの時間でも花に接すると、気持ちが柔らかそうです。苺園の敷地内も芳子さんさんのセンスが光り、訪れるお客さんの目を楽しませています。

これからのことについて伺ってみると、「女と男では同じものを見ても違った見方をする。考え方も違うし、それぞれが持つ特性を大事にしていきたい。だから今後は、夫婦一緒にいちごの研修に行ってみたい」と話す芳子さんの笑顔はとても輝いていました。

新しい指導農業士・農業士を紹介します

昨年11月9日、千葉市内で、今年度の指導農業士・農業士の認証式典が開催されました。

山武地区では指導農業士2名、農業士1名が新しく認証されました。

指導農業士

指導農業士は、農業技術・経営管理能力等に優れており、担い手の指導に理解と熱意があり、積極的な指導支援活動ができる方です。

たなべ こういち

田辺 耕一さん（成東町）

シクラメンを中心とした鉢花と花苗生産販売を行っています。

特にシクラメンに関しては、品種改良を積極的に行い、契約栽培を導入して安定経営を実践しています。

かわつら さだお

川面 貞雄さん（成東町）

観光もぎ取りと直売によるイチゴ生産を行っています。

堆肥と有機肥料を使った「うまいイチゴ」や多品種栽培を実践し、確実に顧客の確保を図っています。

農業士

農業士は、地域農業の中核的な農業者で、青年農業者の集団活動においてリーダー的な方です。

よしだ くにお

吉田 邦雄さん（山武町）

有機栽培を主体とした野菜経営で、JAの有機部会に加入し、環境にやさしい農業を積極的に展開しています。

また、町青年協議会や青年会議でも会長を務めるなどリーダーとして活躍されています。

以上の3名の方々が今年度認証されました。今後のご活躍を期待申し上げます。